

The 33rd All Japan Taekwon-do Championship



若手の進化で新たな勢力図

2022年2月26～27日、第33回全日本テコンドー選手権大会が東京・国立代々木競技場第二体育館にて開催される。

新型コロナウイルスの影響により前大会はトウルのみ競技となったが、今回はマッソギも行われ、再びスピーディーで激しい攻防戦の醍醐味を目にすることができる。

マッソギでは、2年の空白が焦点となるだろう。

2年前の第31回大会では、新旧交代が謳われながらも強き王者たちの牙城は崩れなかった。

2年の歳月が、後続する選手たちの成長を促し、新たな時代のうねりを作り上げる起点となるのが注目される。

その予兆として、前大会ではトウルでジュニア上りの十代が大きく躍動した。

47名が出場した男子トウル1段の試合で、同クラス三連覇、二度のMVPに輝いている西川千尋を下し、シニア戦初出場で初優勝の快挙を成し遂げたのは18歳の高橋駿介だった。その決勝で対戦者となったのは同じくシニアデビュー、同じ年の島田海人だ。

予想を覆した結果は、新たな流れを強く印象づけた。

そして、この流れはマッソギでも続くと予想される。

初出場の第31回大会で実力者たちを破る快進撃を遂げ-64kg級準優勝を飾った池内翔琉、世界ジュニア選手権で大活躍した大川竜平、黄将など、成長著しいジュニア出身の選手たちがシニアへエントリーすることで、新たな勢力図が生まれる可能性は大きい。

一方で、青木一翔、平間陽太、岡野泰希、岡野祐紀をはじめ、頂点を目指してきた若き有望選手たちの進化も期待できる。これまで悔しさを味わってきた彼らの悲願に対する士気が、全日本の舞台に乱戦を呼ぶかも知れない。

全日本の立役者として活躍してきたオ・ロスティスラブ、船水健二、三宅心平、そして若きエース西川千尋たちが今大会でも優勝候補としてリードしていることは言わずもがなである。

それでも、圧倒的な強さを誇ってきた王者たちに対抗する若き挑戦者たちの勢いは止まらない。やがては大きなうねりとなって、全日本大会を「群雄割拠の戦い」へと導くだろう。

大会日程

2022.2.26(土) マッソギ予選

開会式：PM2:30(開場 PM2:15)

試合開始：PM3:00

2022.2.27(日) トウル・マッソギ

試合開始：AM10:00(開場 AM9:45)

記念式典：PM1:00

※大会日程は変更する場合があります。

会場アクセス

国立代々木競技場
第二体育館

東京都渋谷区神南2-1-1

JR山手線「原宿駅」、東京メトロ千代田線・副都心線「明治神宮前駅」下車 徒歩5分

